

平成31年 2月7日 (木曜日) 第1329号

園芸新聞

発行所 株式会社園芸新聞社 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-7-13 電話 0422(51)8953 FAX 0422(55)7187 発行人 前田 彰宏 購読料 1ヵ年5,400円 振替 00130-2-85300

第9回トマト・キュウリサミット

全野研が埼玉県で開く 環境制御で経営向上を図ろう

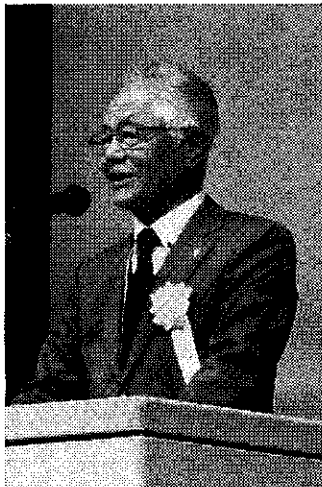
全国野菜園芸技術研究会(略称「全野研」)は1月31日と2月1日の2日間、埼玉県において第9回トマト・キュウリサミットを開催した。今回はハウス内の環境制御効果を最大限に引き出すため地下部に注目を集めた。施設栽培の根拠環境制御をテーマとして行われた。1日目はさいたま市の大宮ソニックシティで講演、パネルディスカッション、事例発表などを行い、2日目は埼玉農業技術センターの見学を行った。また、全野研協賛会による機器・資材・種苗展示会があり、新製品や話題商品を展示して賑わいを見せた。



埼玉県の大宮ソニックシティで開かれた全野研第9回トマト・キュウリサミット

清水、篠原両氏が講演 3名の生産者が事例発表

開会セレモニーのあと、清水省生産局園芸作物課の清水治弥氏が「これからの野菜園芸施策・技術開発」の基調講演を行った。わが国の温室設置面積は平成28年度で4万3千220ha、そのうち複合環境制御装置を導入している温室は1070ha(2.5%)に過ぎない。このほか懸念している課題が作付面積の減少である。野菜の需要は加工業務用野菜などが比較的に減少している中で生産性を上げるためには環境制御装置の普及が重要であり、次世代施設園芸のモデル拠点を全国に10カ所所設して実証試験で知見を深め、その取組を拡大していくと述べた。



挨拶する大山全野研会長

このほか懸念している課題が作付面積の減少である。野菜の需要は加工業務用野菜などが比較的に減少している中で生産性を上げるためには環境制御装置の普及が重要であり、次世代施設園芸のモデル拠点を全国に10カ所所設して実証試験で知見を深め、その取組を拡大していくと述べた。

「本日は総勢300名を越える皆様にご参加いただきありがとうございます。本サミットの傾向としては環境制御の導入や若い生産者を中核とする動きが顕著です。JA全農耕種総合対策部の本山浩毅次長、埼玉県の農林部長の篠崎豊氏が紹介され、代表として篠崎氏から大きな期待が寄せられています。国の事業が活用して次世代モデルハウス拠点を整備し、ト

耐久無滴農POフィルム スーパーダイヤスター

8年耐久

1 耐久性

- 8年連続展張を実現しました。
- 新配合剤の採用で更に(強度・透明性)が高まりました。当社従来品(ダイヤスター)比
- 良好な透明性を保持します。

2 透明性

- 新配合技術によりスッキリした透明感が向上しました。当社従来品(ダイヤスター)比

※地域、ハウス構造、気象条件によっては、耐用年数が短くなる場合があります。

耐久無滴散乱光農POフィルム 美サンランダイヤスター

8年耐久

- 散乱光でハウス全体に光がゆきわたります。
- 無滴性能が持続します。

人工光・閉鎖型苗生産装置 苗テラス

- 植物の生育に必要な環境を自動制御し季節や天候に左右されることなく、いつでも・簡単に、丈夫で均質な苗作りができます。

三菱ケミカルアグリドリーム

本社 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-2-2 三菱ケミカル日本橋ビル TEL.03-3279-6200 FAX.03-3279-6757

農薬資材の情報が満載。 当社ホームページにお越しください。 <http://www.mc-agri.co.jp>